

会 議 録

1 会議名

令和7年度 第6回金谷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○自主的な審議（公開）

（1）自主的審議事項について

3 開催日時

令和7年11月12日（水） 午後6時30分から午後7時30分まで

4 開催場所

金谷地区公民館 集会室1・2

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）

- ・ 委 員： 村田会長、阿部副会長、長副会長
浅野委員、大瀧委員、大西委員、小竹委員、小林委員、小山委員、
白石委員、滝澤委員、星野委員、益田委員、宮越委員、吉野委員
- ・ 事務局： 南部まちづくりセンター 大島所長、小池副所長、石黒係長

8 発言の内容

【小池副所長】

- ・ 15人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ 同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務めることを報告

【村田会長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 会議録の確認：浅野委員、小竹委員に依頼

— 次第2 自主的な審議（1）自主的審議事項について—

【村田会長】

次第2 自主的な審議（1）自主的審議事項についてに入る。

今後の自主的な審議については、金谷山について話していくことに決まったが、きちんとしたテーマはまだ決めていないので、本日、話し合いを進める中でテーマが決まれば、決めていきたいと思う。

まず、小林委員から資料1のようにさまざまな提案が提出されたので説明していただき、その後、皆さんで金谷山について、どんなことを話し合っていくべきかなど自由に意見交換を行いたいと思う。

【小林委員】

・資料1について説明

【村田会長】

今ほどの説明に対し、各委員の意見を求める。

【吉野委員】

地域性を非常に理解したプレゼンテーションで、私が考えていたことと被ることもあり面白いと思った。私もいろいろなアイディアがある。例えば、ここに道の駅ができるとしたら、金谷山のベースを山の下に設置することによっていろいろな地域からさらに近い公園になるのではないかと考えている。住んでいる人も使いやすくなっていくのかと思ったりしながら、道の駅ができるのであれば、地価も上がる可能性もあるし、いろいろな利益もあるのではないかな。

元々ここはスキー発祥の地で、スキーというスポーツの文化を皆さん最終的に人気が出るところにしたいという中で、今までの文化を継承していったり、教育だったり、自然だったり、そこに行くまでのストーリー性がカルチャーとして、そこがバズるみたいな形にしていっていいのではないかな。いろいろ細かいアイディアはあるが、金谷山というこの地区の今ある資源をプラットフォームのようにして、そこにソフトをもっと充実していったらいいのではないかな。ソフトにはソフトのそれぞれのコミュニティをもっているから、そういった人がここに集まってくるような仕組みを作りながら、

地域に定着しながら地域とともに発展していけるような、つながっていけるような金谷山のテーマになったらよいと思う。

【村田会長】

小林委員の七つの提案に対して、具体的な意見はないということか。

【吉野委員】

小林委員の提案された意見を膨らませて、皆さんがひらめいたアイディアをこれからどんどん出し合って、実現に向かって地域とともに、みんなでやっていくのだというふうになっていったらよいと思う。

【小林委員】

7番まで番号を振ってあるが、1番から7番まですべて融合するものなので、完全に独立しているとは思っていない。キーワードとして分けているだけなので、すべてが有機的に結びつくべきものだと思っている。テーマとしては七つという形なので、例えば、5番はやって6番はやめようという議論よりは、今、吉野委員がおっしゃったように、これをどう結びつけていけばもっと明確なストーリーができ上がるかみたいな議論していただきたいと思う。

【宮越委員】

内容的にメニューも多くて大変よいと思う。実現にあたって中・長期のスパンで考えていかないと小林委員も言われたが、例えば、ハードを整備するのはここに関わる運営母体を仮に確保できたとしても非常に高額になる。いろいろ制限もあるということを見ると、これは当然、市または市に準ずる団体でないとできないという分類になるだろうし、運営母体でも地域協議会がアクションを起こして運営母体を巻き込んでいくのか、市が運営母体に働きかけてやっていくのか、これは今後の検討の中で整理をしていくべきではないかという気がする。

これ以外にもさらに多くのメニューが出てくると思う。そのメニューをできる限り上げて、例えば、地域協議会で一定程度の内容をまとめたときに、市に意見書または提案として出すのであれば、市が乗り気になるような総合的なメニューにしていかないと、例えば、単発で行った時に、おそらくその担当課では自分たちの予算を要求する時に取れるか取れないかということで考えてしまうと思う。そうすると、

これ以外にそれぞれの担当課が要求すべき優先度の高いものが必ずあるので、結果として落ちると思う。どうすればよいかというと、金谷区全体でこういう構想で地域全体をこういうふうに作っていきたい。ハードをこうしてその中での活動をこうしてという、そこまで組めると説得力が出てくるのではないか。例えば、個別に事業費を積み上げていけば結構な事業費になると思う。お金は市が持っているから、良くも悪くも市を巻き込まないといけない気がする。

道の駅でいうと長野方面もっと広く言えば群馬方面から観光客が来る。海へ行く方が多いと思うが、その途中のこの場所でどういう需要があるか、どういうものがあったら停まってくれるか。魚を売っているとか、野菜を売っているとか、どんなメニューがある道の駅なら寄ってみようと思うか検討が必要ではないか。新井の道の駅は、地域独自のメニューではなく、新井に特有のものがほとんどない。道路の反対側に新しくできたものも、それほど妙高、新井を特徴付けるものがない。当初、道路の構造を変えない限り、いつつぶれるかという状態になっていた。あれは、需要調査ができていなかったと聞いている。妙高市が国に働きかけて今の状態にして、ようやく人の流れができた。人を流れさせるには、どうしても行政にどこかで関わってもらわないと中々実現できないという気がするので、総合的にどういうメニューで、どういう地域にしていくかを地域協議会の中で構想ができれば、すぐ実現するのは大変かもしれないが、いいねと乗りやすい内容にしていけばよいと思う。

単発でこの中で選ぶのはあまり得策ではない気がする。地域の独自性を出すハード面ソフト面を出すのが6番までのものだと思う。7番の金谷区のかるたは、内容を詰めて先行してもよいのではないか。金谷区のかるたということになると、金谷区の町内会に公募をする。または、町内会をとおして希望を取るといったときに、どこの地域も、うちの地域ではこういうのがある、清水がある、地蔵さんがあるというようにたくさん出てきたときに、選ぶ選択が大変になるので、その辺も考慮した上でメニューを絞っていかないと着地できないのではないかという危惧をちょっと持っている。

【益田委員】

小林委員の資料を見た時に、これだけのいろいろなアイディアが出るのだと感心

した。ハード面のことはよくわからないが、何かをするためには、ハード面と人がつながることが大事かと思うし、最近、公民館をいろいろ使われている方がいらっしゃるので、ここにもう少し金谷区のことをわかるものがあればと思った。資料の1番は、早めに置いたらよいのではないかと考えている。

かるたは、子どもは地区で勉強して学んで遊んでいるからわかることがあるし、年輩の方がずっと分かっていらっしゃることもあるから、年代を問わずにいろいろなことに関われるという意味で、すごいアイデアだと思うし、何か関われることがあればと思った。

【星野委員】

ヨーデル金谷の横にベンチを置いたりするのもよいが、さくら千本の会でその周りに10本くらい桜の木を植えようという話があったが、誰が面倒を見るのだと却下された。それで、最近ずっとさくら千本の会の人たちは面白くなくて、会うたびに言われる。そういう面もあるので、ただで植えてあげるというのに行政で面倒を見てくれないというのはおかしいのではないかと考えている。

【小林委員】

行政の回答が、面倒をみないということか。

【星野委員】

そうである。桜が大きくなったらどうするのか。切ることができるのかと。10年もかかるのにそういうことを言われたりする。

公民館を使っている人が、お昼前に終わったら、そこにベンチがあれば桜の花を見ながらお昼を食べたり、ヨーデル金谷に行ったりできるのではないかと考えた。近所の人たちの野菜などを持ち寄ってそこで売る。旗が立っていると寄りたくなる。時期の野菜などを売ったり、子どもたちも巻き込みながらそういうのがあればよいかなと思う。

先日、50キロ走るトレイル大会があった。あれもずっと回ってきてよいコースである。ここを通ったが全然盛り上がっていなかった。フリーマーケットや森の幼稚園があるときは、キッチンカーが来たりして今年はすごく盛り上がっていた。そういうことも交えながら、若い親子を呼び入れるようなものと年寄りの散歩コース

をすればよいかなと思う。

心のふるさと道もすごく傷んでいる。少し綺麗にすれば小学生のトレイルランとか子どもたちが遊ぶことができるのではないかな。

街灯は1本建てるのに10万円からかかるそう。それをどこから出していただけるかということになる。既存の電柱があればLEDがすぐ点けられるが。

レルヒさんの顔出しパネルは、レルヒ祭の時にあったような気がする。

【小林委員】

レルヒさんは割と息の長いキャラクターとして、今でも活躍していただいているので、もっともっとよいキャラクターにすれば、全国でももっと情報発信できると思う。

【星野委員】

遊歩道の整備については、幼稚園の子や小学生が森林浴をしながら歩いて行き、そしてまたバスが向こうで待っているというように、学校と連携しながら、教室の勉強ばかりでなくて、野外教育もやっていただければと思っている。BMX場から上にあがる道もすごく傷んでいる。

【小林委員】

そこから入ってくる人はほとんどいない。

【星野委員】

本当はBMX場の脇からレルヒ像の横の下に道があった。それが今、ものすごく傷んでいて、あそこが昔はゲレンデだった。そこを歩いたりするのもまたやぶの中を歩くのもよいかなと思う。最近またイノシシが出ている。金谷山のゲレンデの中も掘った跡がある。

【村田会長】

遊歩道等の整備事業は、数年前にやった地域があった。

【小林委員】

後谷ではなかったか。

【村田会長】

そうである。金谷山もそういう形で取り組むことが可能であればよい。

【小林委員】

結局、それをやろうという団体がどこになるか。

【村田会長】

地域活動支援事業でやった。

【星野委員】

さくら千本の会のところは業者が少し直した。

【村田会長】

さくら千本の会がやったわけではないのか。

【星野委員】

そうである。業者がやって、その伐採した木でベンチを作った。

【村田会長】

いろいろ細かいことが少しずつわかってきた。

【滝澤委員】

他の委員が言われたようにこれを体系的に結びつけて、金谷区全体の活性化という大きな目標に向かって計画ができて実行ができればよいと思う。ただ、4番、5番は市に要望して設置してもらうことになるかと思う。私も街灯は必要だと思う。特に金谷山から対米館、音羽館のところはあるが、関根学園側は真っ暗で怖いくらいである。真っ暗なので、車で上がって来てゴミを捨てる人が結構いる。ゴミ捨て場みたいになっている状態なので街灯が必要だと常々思っていた。街頭の設置は、人口や人が住んでいるか、住んでいないかということや、何メートルおきに付けるという基準があると思うので、それに該当しないから無いのかもしれない。

花いっぱい運動は、先ほど星野委員も言っていたが誰がやるのか、植えた後、誰が面倒を見るのか。この計画の全てがそうだが、私たちは実行部隊になれないとしたら、新たに作るという考え方もあるが、実際やるのは誰なのか、市に要望してお金だけ出してもらってということもあるかもしれないが、それが重要になってくると思った。

私も晴れていれば毎日金谷山をぐるぐるとレルヒの銅像まで行って、関根学園側を降りてくるが、頂上にロッジレルヒがあったが稼働していない。それから、スキ

一発祥記念館に人が入っているのを見たことがない。今頃になると10時とか11時に散歩することもあるが、人が入っていくのをほとんど見たことがない。だから、今ある既存の施設をアイデアを出して活性化するというのも一つの案かなと思っている。

【宮越委員】

街灯の設置基準はある。住宅地が基本。あとは、都市公園。都市公園は高田公園と直江津の公園しかない。それ以外は、観光施策の整備でつけるところはあるが、先ほども言ったが、ここ全体の整備計画があると道路の街灯の設置の可能性は出てくると思うが、単独だと特にあそこは電気がきていなので、ステンレスの簡易パイプで作ったとしても下の基礎をしなくてはいけないから50万円からかかる。しっかりしたものを作ると1基に100万円以上かかる。だから、そう簡単には作られない。それに人通りがあまりないということで、ゴーサインが出るのはなかなか難しいかと思う。全体でこういう位置づけにするのでというのがあると、理屈はつきやすいし整備も動きやすい。単独でというのは中々難しい。

【村田会長】

確かに、日本スキー発祥記念館に人が入っているのを見たことがない。

【星野委員】

今年は大学生の団体がいっぱい来たようだ。

【村田会長】

金谷観光協会にお知らせは入ったのか。

【星野委員】

無かったが、ちょこっと見ていた。

【白石委員】

私は考えがまとまっていないので、次の人どうぞ。

【小山委員】

金谷町内に来て40年が経つが、来た頃に金谷山を一周する散歩道を歩いた覚えはあるし、その時はまだジャンプ台もあった。あの時は何か金谷山らしいという感じがしたが、今は金谷山の下にいても全然金谷山という感じがしなくなったという

か、何か死んでいるという感じがする。

いろいろ項目が出ているが、一つ一つでは難しいと思うので、全体的に企画を作
って進んでいければよい。市なり団体に提示をして、ある程度、方向性を見せる中
で予算化なりしてもらおう。例えば、3番目の花いっぱい計画については、地域の協
力がどうしても必要になる。私も金谷の町内にいるので地元の町内から協力してい
ただきながら、花壇作りだけでもやっていけたら早くできるのではないかという気
持ちもある。

町内会の役員をやっているときにいろいろな意見を出したと思うが、まずは、散
歩道を作るのと、駐車場からは雑木林になっていて下が見えない。市に何回も要望
を出して、市議員からも動いてもらったりして木を切ったこともあるが、それ1
回限りで、2、3年前は大きい木だけ切っただけで下は見えないということで、あ
る程度予算の範囲内でやっているという段階なので、あまりお金をかけないででき
ることからやっていきたい。

高田西小学校では、田んぼで米を作っているので、町内会館を借りたり学校の正
門の前で自分たちの作った米の販売をやっている。せっかく広い駐車場があるのだ
から地域の人たちも一緒になって野菜販売をイベントとしてやったらどうか。

【村田会長】

今年は、まだ町内会に声がかかっていないのか。

【小山委員】

今年はまだである。

【村田会長】

高田西小学校だと、だいたい大貫4町内ですよね。

【小山委員】

わからない。

【村田会長】

平山はきている。小山委員の言われるのは、公民館とかヨーデル金谷のテラスの
外周りを利用してもよいのではないかという意見かと思う。

私の見識が間違っているのかもしれないが、この公民館の中で物の販売は遠慮し

てほしいと言われた。

【宮越委員】

教育委員会所管の施設、敷地内は条例の中で物品販売はダメである。

【村田会長】

敷地内だからダメなのか。それだと何も意味がないのではないか。活性化に繋がらないのではないか。駐車場を外れればよいのか。

【宮越委員】

そうである。

【村田会長】

市民プラザは中で販売してもよい。あれは市の施設であってもよいのだなと認識している。

【宮越委員】

市民プラザは教育施設ではない。

【村田会長】

公民館は教育施設なのか。

【宮越委員】

そうである。教育施設の敷地内で物を売って、お金をもらうのがよくない。

【村田会長】

そういう認識を春にオープンした時に改めて、ダメなのだと思っている。

【小林委員】

レッスンとかやって、会費をもらっている人はいないのか。

【村田会長】

やっている。

【宮越委員】

実費相当額は認められる。それが1,000円とかということになると許可の段階で多分チェックが入ると思う。例えば、トレーニングで必要な消耗品が500円相当とか、子どものおやつも含めて300円相当とかいうのは実費負担ということで実費相当である。

【小林委員】

フリーマーケットをこの辺でやったら一番いいなと思う。

【村田会長】

ダメなのか。

【宮越委員】

微妙である。営利目的なのかという話になると、例えば、高田城址公園で屋台はお金をとって物を売っている。あれは許可をもらっているからである。それ以外は、あそこに店を出すにしても、営利企業に制限があって、店だけかというところと一般の人間でもそこに持って行って売ると営利業務である。だから、子ども会だろうとお金を取ることがやはり問題ある。微妙なところがあるから、売り方、買い方、実施する団体の在り方によっては教育委員会が認める場合もないことはないと思う。

【小竹委員】

先月参加できなくて申し訳なかった。南部まちづくりセンターにお願いして、議事録の確認させてもらった。金谷山の活性化、金谷山がシンボルで盛り上げていきたいというところだが、私自身が金谷区地域協議会に入ったのもマストでしたいのはここだったというところがある。私自身10年前に上越アクティブスポーツ協会という団体を立ち上げて、10年間活動してきて今現在、パティオの隣のところに公園を作ることの一つの着地点としてゴールとした。私自身がマストでしたいのは、30年前からやっているBMXありきの金谷山にスケートパークなり、そういったものを作りたいという思いがすごく強くあるので、いよいよここから金谷山を稼がせるために動いていこうかなと思っている。

地域協議会の実働部隊になれないというのは十分承知しているが、これからも生涯をかけて自分自身が実働部隊になってでも動いていきたいと思っている。大きなビジョンとしては、金谷山は日本スキー発祥の地だが、実際に金谷山でスキーをしたことがある人というところ、この辺りの高田西小学校とか限られた小学校の子どもたちしかいないと思っている。全国的に見ても新潟県上越市に住んでいるとなったときにウィンタースポーツをしたことがある人が割合としては結構少なく、それでは、雪国上越市がもったいないだろうと思っていて、金谷山は市街地から5分で来

られるスキー場で、子どもたちにスキーはしてほしいと思っている。

ウィンタースポーツ業界も妙高杉ノ原のほうをいろいろ開拓していて、恐らく今後庶民が手軽に滑りに行けないような環境になっていくと思う。それはそれでその地域は潤うからよいと思うが、正直、シンガポールの人たちは上越市の人たちとほとんど関わってなくて、長野のほうに目を向けているので、このままだと上越市を含めて市民のウィンタースポーツというのがどんどん廃れていってしまう。ハードルが高くなってしまふことをすごく危惧している。

金谷山を手軽にできるスキー場として、もう一回再構築をして雪がなくても滑れるように、人工芝は今すごく進化しているので、少量の雪でもスキー、スノーボードができる環境を整えて、リフトもペアリフトにする。いろいろなスキー場が潰れてしまっているんで、新品のリフトを建てるとうすごくお金がかかるが、譲ってくれるというところがある。運ぶにしても支柱ごと運んだりしないといけないので、億単位のお金がかかってくると思うが、新品で建てるよりは費用を抑えて、金谷山自身を生まれ変わらせることができるかと思っている。夢みたいな話だが実現したいと思っている。そういったことは大きな話だから、国、スキー連盟、スノーボード業界からも、もしかしたらお金を引っ張ってくることもできるかなと思っているので、大きなビジョンとしてやりたいと思いながら、小林委員の提案を見させてもらった。

そういうことに比べると、実現性が高いことかなと思っている。特に、先ほどお話のあったBMX場の入り口のところを、もう少し奥にして散歩道にできないかというところだが、以前もお話させてもらったが、我々BMX場を管理している団体としたら全く問題ない。むしろ中に一般の方たちにもっと入ってほしいし、散歩道としてきっちり整備をして、金谷山公園なのでもっと気軽に入ってこられるようにしたいという意見のほうが大半で、反対する人がいないので市と一緒に話をしていけばすぐにでも進められることではないか。

お花も管理はあると思うが、植えられるのであれば植えればよいなと思うし、実動部隊を一つ作ってその中で人を集めてどのように運営していくか、どういうふうにお金を引っ張ってくるかということになっていくかと思うので、私自身も本腰を

入れてやっていきたいと思う。

【村田会長】

大変力強い意見をいただいた。

【大西委員】

アイディアとしては全部よいと思う。6番のヨーデル金谷と小竹パンのバーガーなんて絶対私には思いつかない発想だと思う。本当にいろいろな角度から提案していただいてありがたい。実働部隊ではないので難しいなというところも多々あるが、できる、できないは横に置いて、やはりこれを肉付けしていったほうがよいのではないか。興味を持ってもらう、関わる人を増やしていくというのが大事なことから思っている。

高田西小学校は金谷山で遠足をしたり、お米を作ったりしている。金谷山太鼓をレルヒ祭の時に披露したり、多くの子どもたちが関わっている。そのご両親の金谷山という意識が高いと思う。そういう方たちを巻きこんで、例えば、お花栽培するところを子どもたちにもやっていただきながら、その成長を代々見守るとか、そういう継続性があるものを入れていったらどうか。

小学校だけではなく、中学、高校と広げてよいと思う。やはり、一番密着しているのは小学校かなと思っていて、愛着のある人たちに興味を持ってもらう。そのご両親に興味を持ってもらうというところは大事なかなと思う。

BMX場の周りは、小竹委員が場所を上に乗せて使ってよいと言っているし、許可も取れているのでそういうところを具体的にも進めていくなり、ボランティアをしている人たちがいるか、やっている団体があるのかどうか、そういうところを当たる、実働部隊がなかったら小竹委員と私も一緒に動いたりするので、とにかく進めていくことが大事かと思う。それとともに大きな構想をこういうふうにしていくという肉付けをしていく間に、違うアイディアも出てくると思うので、一個一個肉付けていったらよいと思う。

【大瀧委員】

金谷山を中心として、人、活動、アイディアなどが地域としてつながる方向にというのは私も賛成である。急にこういういろいろな計画を立て、必ずその方向へ行かなければ

ればダメだという下の方に強制力を持ったような扱いでなくて、自然に、みんないろいろな機会に地域の人とのつながりをもっていくという精神をPRしてもらいたいと思う。昔から言われるように、市町村合併をしたが、いつまで経っても旧なんとか町だ、旧なんとか市だと、よそのグループや団体を仲間にしないできたということだが、自分たちの地域なのだとということを、いろいろな世代の人にも理解してもらいたい。昔から市町村合併は、親、子、孫と三代経ないと最初の合併の精神は実現しないと言ったものである。争わないで、ここに載っている方向でみんな協力してもらいたいと思う。

【浅野委員】

私も今まで言っていたのと考えていたことが結構ここにまとめられているが、先ほど宮越委員がおっしゃられたように、一つの大きなプランが必要だと思う。これを行うことが、金谷区の発展、ひいては、人を呼び集めて上越市の発展につながるのだというような大きい旗印を作ってそこからプランを作っていく。各論をつけていくのが必要だと思う。金谷区の中にそういうプランナーをやっている事務所があるのではないかな。あるいは、金谷区になかったら上越市でもあるのかもしれない。そういうところに、まずお金を払ってその中でバラ色のプランを作ってもらおう。それをネットで流して、クラウドファンディングでお金を集める。私が行っている阿賀野市では、サントピアワールドがそれで金を集めた。3,000万円の予定が5,000万円集まったそうだ。「クラウドファンディングでお金を集めるとこんな実績ができました」ということを市にも言えば、市からも予算がつくはずである。

この公民館の周りをプラットフォームにして、そこから金谷山へ上がる道、あるいは、その頂上のところを発展させるやり方だと思う。幸いなことに道路が2本あるからこの2本の道路を上手に使って、例えば上りと下りにするとか、暗くてしょうがないというのではなくて、2本の道路を活かしながら上手く使って頂上までの一つの道筋をつけてやる。そうすれば、きっと誰もが喜ぶような、発展するような地区ができるし、ひいては金谷区ってよいところだね、ここに住みたいねというふうな、滝澤委員がおっしゃるような、空き家活用とか、あるいは、新しい家とか人がどんどん増えてくるようなプランまで考えられるのではないかなと思う。

そうやってこの地区が発展していけばよいというのが私の気持ちである。

【長副会長】

大きい括りは、浅野委員がおっしゃったようにプロに頼むのもすごくよいと思う。今できることとして考えていたのは、実動で動いてくれる団体がわからないので、そういう団体の掘り起こしをして、動いてくれそうだったらお願いするし、ダメだったら自分たちで別団体、小竹委員は今もうやりますとおっしゃっていたので動くかなと思うが、そういう団体を見つけるのもよいと思った。

道の駅は前期の委員の時から言っていて、いきなり道の駅だと壮大すぎて厳しいかなとずっと思っていた。できるとしたらフェスとか市だったらと思った。公民館で物を売れないという出鼻をくじかれる話が出たが、学校関係だったら文化祭みたいな体だったらどうなのかとか、人が集まる状況が作ればよいかと思った。

関根学園の裏側の道が暗いという話を伺って、あそこの奥に野球のグラウンドがあるので、危険性とかを上げたら、もしかしたらつくのではないかな。

【阿部副会長】

私は市の観光部署のほうにもいたので、その辺の視点から見たときに、中身がハードとソフトが丁度マッチングしている形で非常にいいなと思っている。宮越委員から意見が出たが、いわゆる短編的な部分の中の計画もよいが、総合計画で金谷山整備計画とかがあって、その枝葉としてこういうものが考えられるという形の整理をしていただくと分かりやすい。宮越委員が言われたように、ハードということになると、行政のほうにある程度お願いしていかないと、なかなか整備が進まないと思う。私も金谷山の遊歩道を春先に歩いたが、あそこは地元の人たちもあまり歩いたことはないだろうと思われる。歩けば非常によいコースだというのが分かるので、そういうことも含めて、ハード整備というのはそういう部分から入っていったほうがよいのかなと思う。ソフト関係については、地元の小学校とかいろいろなところを巻き込んだ中で、例えば、今、カルタの話も出ているが、そういうようなことを仕掛けとしてやっていくということも、地域の盛り上がりとしてはよいのかなと思っている。その辺の連絡がされるような話の整備計画をもう少し練った形で整理していったほうがより分かりやすくなるのではないかなと思う。

【村田会長】

皆様方から貴重な意見、力強い意見をいただいた。これを基にして、正副会長と事務局で今後の取組方法等について打ち合わせをして、次回へまたつなげたいと思う。

次に、次第 3 その他に入る。

事務局に説明を求める。

【小池副所長】

- ・ 第 7 回協議会：令和 7 年 1 2 月 1 0 日（水）午後 6 時 3 0 分から
金谷地区公民館

【長副会長】

- ・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 南部まちづくりセンター

TEL : 0 2 5 - 5 2 2 - 8 8 3 1（直通）

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

1 0 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。